MG MASTER GRADE

反地球連邦政府組織（エゥーゴ）
攻撃用モビルスーツ
RMS-099「リック・ディアス（クワトロ・バジーナカラー）」
1/100スケール
マスターグレードモデル

RMS-099 RICK DIAS

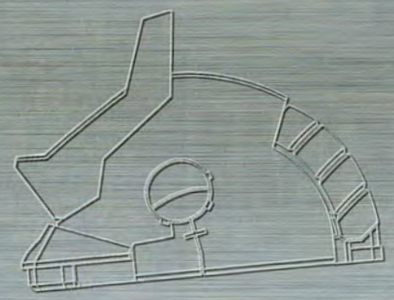
A.E.U.G. QUATTRO VAGEENA'S CUSTOMIZE MOBILE SUIT

©創通エージェンシー・サンライズ

MOBILE SUIT
RMS-099

RICK DIAS

A.E.U.G. QUATTRO VAGEENA'S
CUSTOMIZE MOBILE SUIT



MG MASTER GRADE

反地球連邦政府組織（エゥーゴ）
攻撃用モビルスーツ
RMS-099「リック・ディアス（クワトロ・バジーナカラー）」
1/100スケール
マスターグレードモデル

BANDAI 2004 MADE IN JAPAN

0131421

BANDAI

RMS-099 RICK DIAS

U.C.0083年に設立されたティターンズは、公国軍の残党狩りを標榜し、その一方でスペースノイド（宇宙移民者）への弾圧を強めていた。ブレックス・フォーラ准将をはじめ、エゥーゴとしての体裁が整いつつあった反地球連邦政府の組織は、クワトロ・バジーナことシャア・アズナブルが提供する技術をベースとして、AE（アナハイム・エレクトロニクス）社で新型MS（モビルスーツ）の開発を進めた。その指揮を執ったのが、AEの会長であるメラニー・ヒュー・カーバインであった。メラニーは、MSの基礎フレームなどは連邦軍のものを流用し、経費の節減と建造期間の短縮を図り、即戦力の整備にその精力を集中させた。そして、ガンダリウムγ（ガンマ）の威力は、新造のMSを決定的に高性能なものにしていた。

ガンダリウムγとは、かつてRX-78 ガンダムに採用されていたルナ・チタニウム合金の発展合金であり、ガンダムの"強さ"を支える最大の要素であった。ルナ・チタニウム合金は、放射線を遮蔽する磁性を帯びており、ハイパー核融合炉の併用によって、機体そのものを軽量化し、かつその剛性を高めた。それが戦後になってガンダムの高性能を産み出したと言われるようになった。しかし欠点もあった。量産がきかず、何よりも金属としては硬すぎて、損傷に対しての不安が絶えなかったのである。戦後、公国系の技術者が改良を加え、金属としての柔軟性の付加と量産化の技術を確立した。それが究極形ではないものの、初期のルナチタニウム合金を"ガンダリウムα"とし、それから数えて三世代目に相当する改良であったので、技術者はそれに"ガンダリウムγ（ガンマ）"と名付けたのである。

AE社が開発した新型MSは、ガンダリウムγを使用した初の機体であったので、ブレックスは"γガンダム"にしたいと考えていたが、この機体を見たシャアは、喜望峰を発見したバーソロミュー・ディアスにあやかり、"リック・ディアス"とすることを提言した。実際、機体の形状は"ドム"タイプに似た見慣れたシルエットを持っていたし、クワトロことシャア用にあつらえられた機体は「赤く」彩られていたのである。

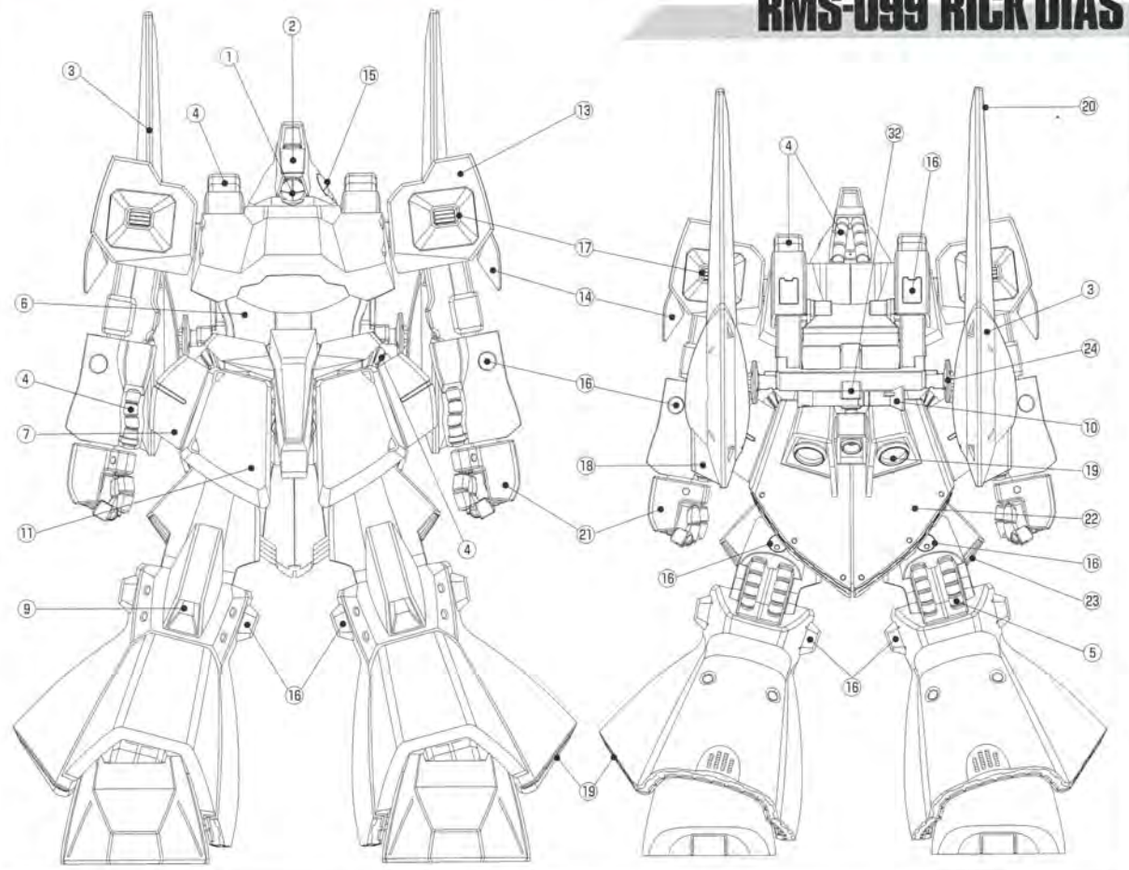
無論"あつらえられた"と言っても特別に新調された訳ではなく、逆にクワトロ機は、いわゆる"先行量産機"に等しい機体であったとも言われている。つまり、量産を前提とした"雛型"として造られた部材や試作品が"比較的多用されている"程度であったようだ。エゥーゴそのものが、ティターンズと本格的に"事を構える"時期を確定させてはおらず、リック・ディアスは味方機に対して"目立つ"必要はなかった。デフォルトのカラーリングが"赤"である必要は無かったのである。少なくとも「Mk-Ⅱ強奪」までは。

リック・ディアスがロールアウト時点で、クワトロが"シャア"であることは「公然の秘密」であった。エゥーゴは、すでにあらゆる業種の"元ジオン人"を味方にしており、戦後の地球圏、特にスペースノイドの間には"元ジオン"という問題はほとんど存在しないばかりか、彼ら無しではあらゆる政治経済活動が滞るであろうことは、宇宙に住むものにとっては至極当たり前のことであった。リック・ディアスそのものが、実質的にシャアの関与が無ければ完成できなかった機体である。だからブレックスもシャアによる命名を尊重した。すなわち、クワトロが乗るリック・ディアスが"赤"であることは、むしろ自然であったと言える。

開発されたばかりの機体を即座に実戦に投入するのは極めて異常なことではあったが、例えば一年戦争時のジオン公国軍のパイロットたちは、伝統的にそれをやり抜いてしまうという自負を持っていた。逆に、現実的には、秘密裡に建造されたMSを満足いくまでテストできる状況ではないというのがエゥーゴの事情であった。それをエゥーゴの指導者であるブレックス・フォーラ准将は、用意周到な人選によってカバーしようとしていた。雛型であろうとも、使えるものは何でも使う。それは機体であってもパイロットであっても事情は同じである。加えて、クワトロ自身も前線に立つことを望んでいた。かくして、自明のこととしてクワトロ機は"赤い機体"となった。ただし、このクワトロ機は壊滅的な損壊を被ったこともあり、最終的なスペックは不明のままであった。

Conceptual Illustration : Katoki Hajime

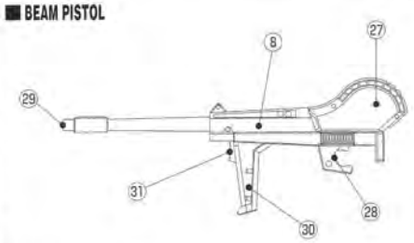
RMS-099 RICK DIAS



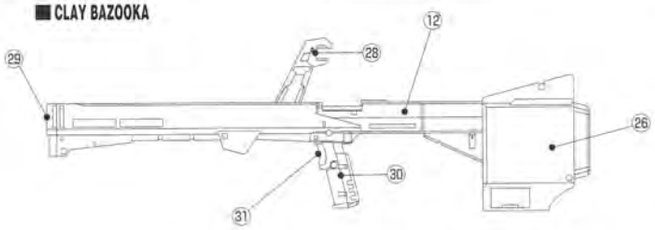
①メインカメラアイ	⑨ニーパッド	⑰ショルダーフロートスラスター	㉕マガジン
②ヘッドカバー（バルカンファランクス）	⑩ビーム・サーベル	⑱メインスラスター	㉖マガジンホルダー
③ブースターバインダー	⑪フロントアーマー	⑲サブスラスター	㉗エネルギーカートリッジ
④パワーサプライケーブル	⑫クレイ・バズーカ	⑳リバーススラスター	㉘ラッチ
⑤ダンパー/フューエルケーブル	⑬ショルダーアーマー	㉑マニピュレーター	㉙マズル
⑥スペシャルファイバーアーマー	⑭フロートアーマー	㉒リアアーマー	㉚グリップ
⑦サイドスカートアーマー	⑮コクピットハッチ	㉓ラジエーターフィン	㉛トリガー
⑧ビーム・ピストル	⑯メンテナンスハッチ	㉔マルチプルクランクマウント	㉜サーベルラック

注）U.C.0087年3月。この機体は、Mk-IIの整備に立ち会う名目でアーガマのMSデッキにいたカミーユの父フランクリンによって奪われ、ティターンズの手に渡ろうとする事態が発生した。その追跡戦が敵MS部隊との戦闘へと発展し、火戦が飛び交う中で撃墜されている。後にアポリー機、ロベルト機を初めとする各エース機も赤くリペイントされたが、各部の仕様は不明である。

■ BEAM PISTOL



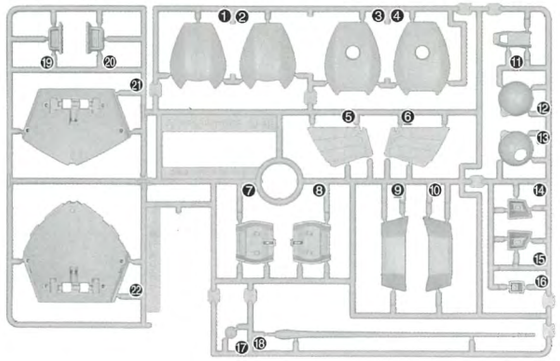
■ CLAY BAZOOKA



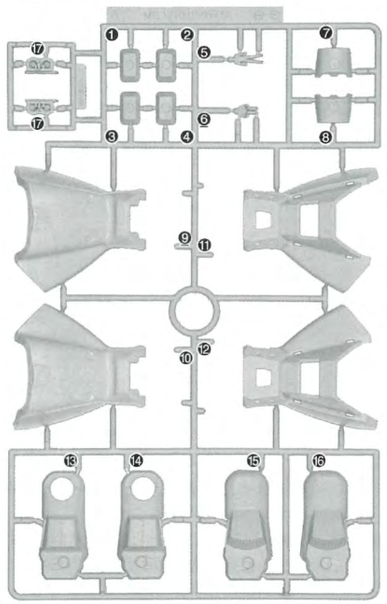
■ BEAM SABER

パーツリスト

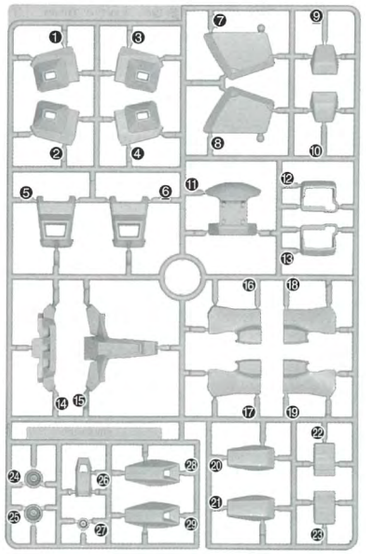
Aパーツ（スチロール樹脂：PS）



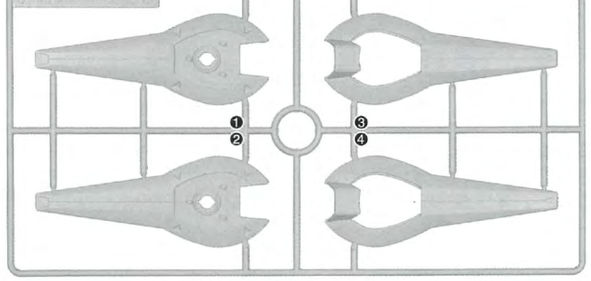
Bパーツ（スチロール樹脂：PS）



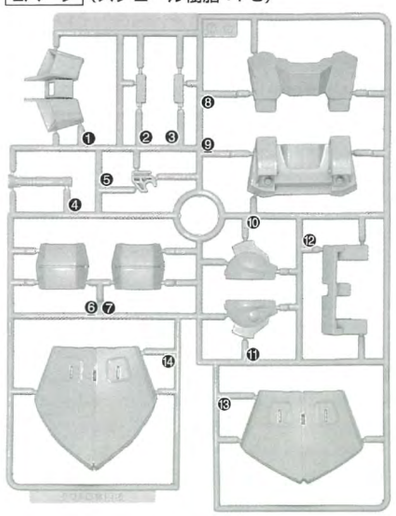
Cパーツ（スチロール樹脂：PS）



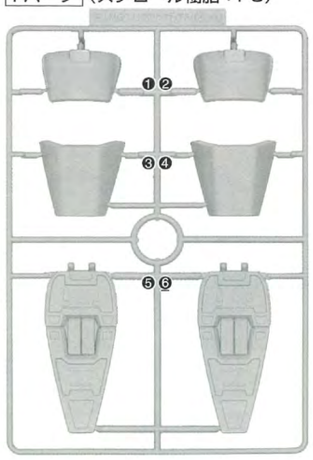
Dパーツ（スチロール樹脂：PS）



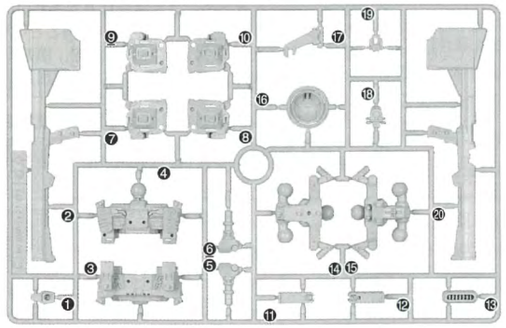
Eパーツ（スチロール樹脂：PS）



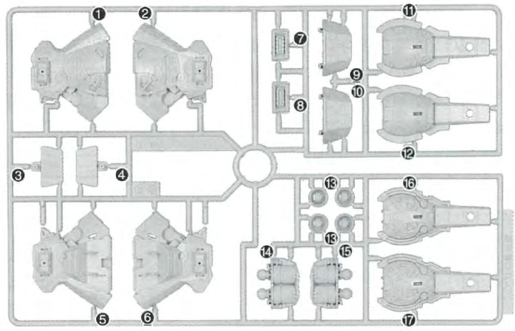
Fパーツ（スチロール樹脂：PS）



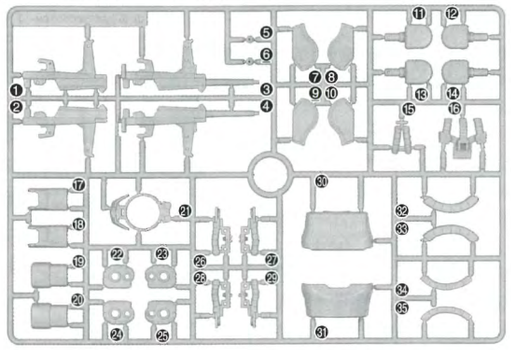
Gパーツ（スチロール樹脂：PS）



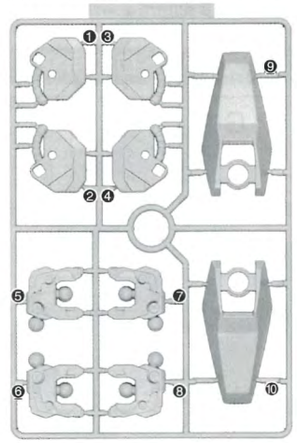
Hパーツ（スチロール樹脂：PS）



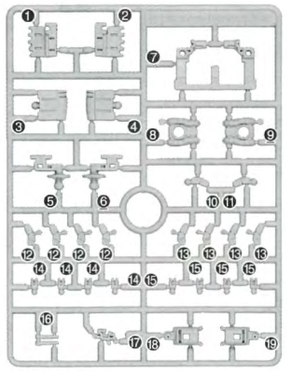
Iパーツ（スチロール樹脂：PS）



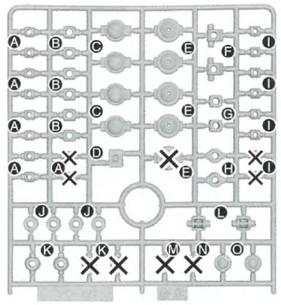
Jパーツ（スチロール樹脂：PS）



Kパーツ（ABS樹脂：ABS）



PC-121
（ポリエチレン：PE）



マーキングシール……1枚
ガンダムデカール……1枚

⚠ 注 意

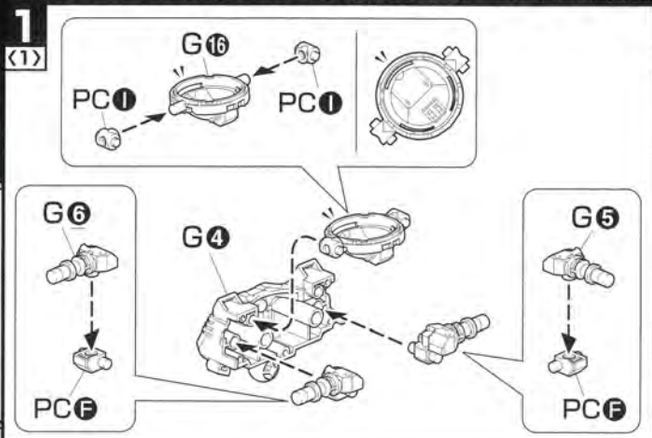
必ずお読みください

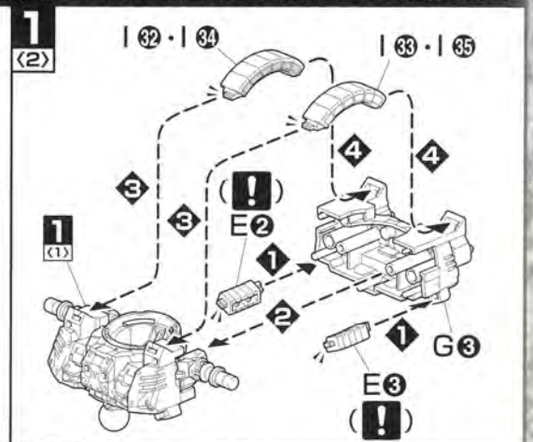
- この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

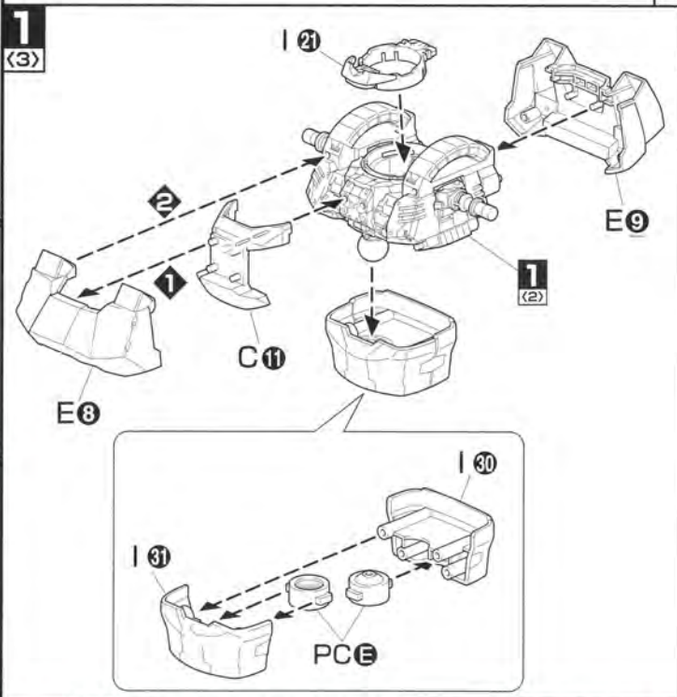
〈組み立てる時の注意〉

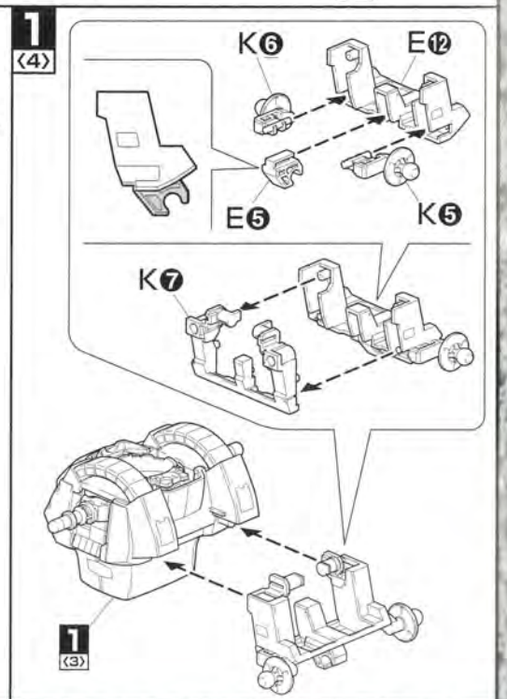
- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

※リック・ディアス（クワトロ専用機）とリック・ディアス（汎機）のどちらかを選択して組み立てる仕様です。







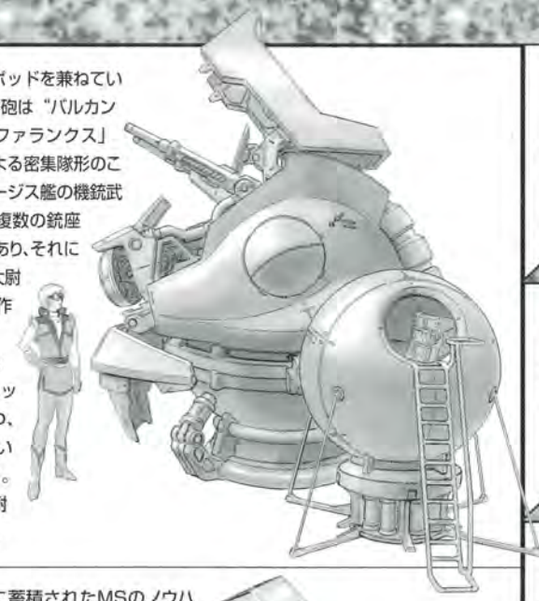


HEAD UNIT

リック・ディアスは攻撃用MSに分類されているが、MSが運用される任務のほとんどをこなすことができる。いわゆる“赤のリック・ディアス”の内、最初期に目撃されていた機体は、細部の形状が後のものと異なる部分があったと言われている。

リック・ディアスの特徴は、その頭部に集約されていると言っても過言ではない。まず、他の一般的なMSと異なり、リック・ディアスのコクピットは頭部に設置されている。このコクピットは、球殻の内部が360°全天周モニターとなっており、高い耐G機能を持つリニアシートを装備している。また、球形ブロック全体が脱出ポッドを兼ねている。頭部に装備された2門のバルカン砲は“バルカンファランクス”と呼ばれている。「ファランクス」とは、本来古代ギリシャの重装歩兵による密集隊形のことを指すが、それに因んで旧世紀にイージス艦の機銃武装エリアなどもそう呼んだことから、複数の銃座のことをファランクスと称することがあり、それに倣ったものである。ちなみに、クワトロ大尉が使用した機体のヘッドカバーには試作品が使われていたという説がある。

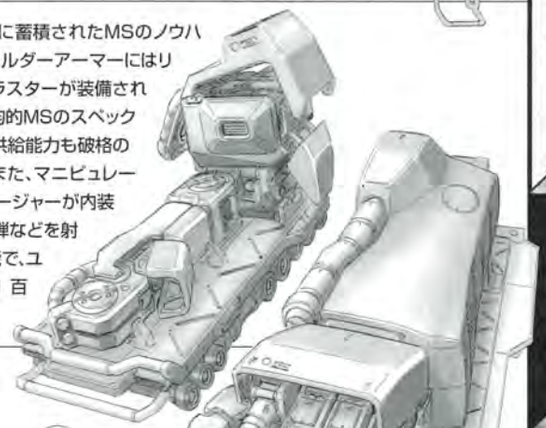
メインカメラは公国軍が開発したモノアイをさらに多機能化したユニットで、機体周囲の状況を走査しつつ、超広角画像を補正して、直視に近い映像としてコクピットに投影する。露出する可動部分が少ないため、耐弾性と整備性が高いとされている。



ARM UNIT

リック・ディアスの腕部は、既存のMSの機能を集約し、さらに多くの機能が盛り込まれている。基本的に、ほとんどの装甲は基礎フレームから“浮いた”状態で可動に干渉しないように配慮されており、この構造は後の機体にも多大な影響を与えている。

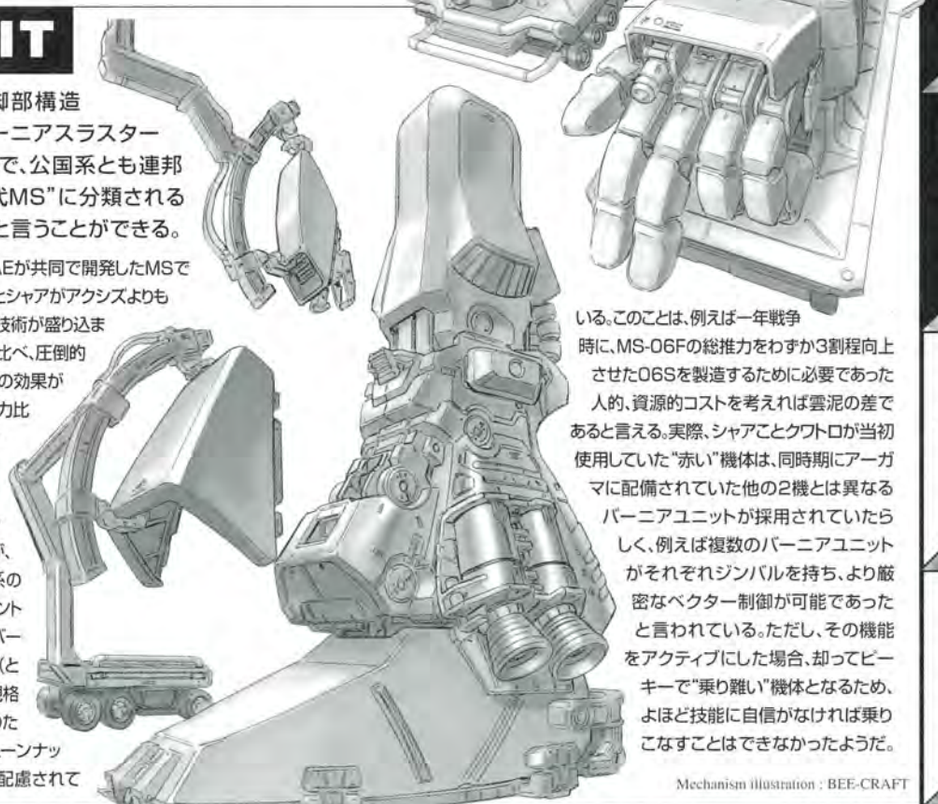
リック・ディアスの腕部は、それまでに蓄積されたMSのノウハウのほとんどが盛り込まれている。ショルダーアーマーにはリバース、フォワード共に有効なサブスラスターが装備されており、トルクと反応速度は当時の平均的MSのスペックを上回り、ビーム兵器へのエネルギー供給能力も破格の容量とフレキシビリティを併せ持つ。また、マニピュレーターの基部にはマルチプルディスチャージャーが内装されており、トリモチ弾や照明弾、信号弾などを射出し、様々な用途に対応することが可能で、ユニットそのものが後のMSN-00100 百式などに採用されている。



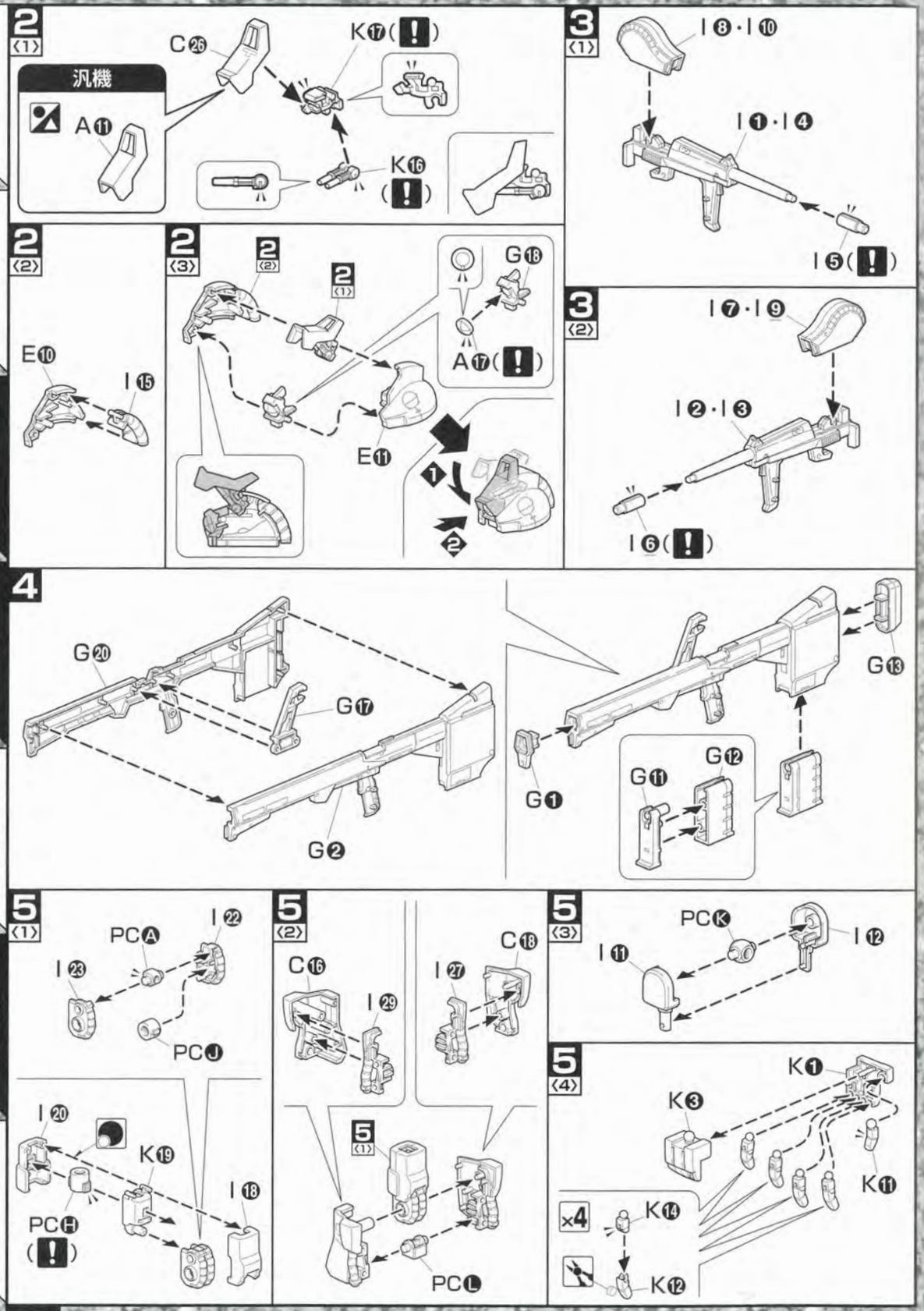
LEG UNIT

リック・ディアスの脚部構造は、必ずしも足下にバーニアスラスターを持たないという意味で、公国系とも連邦系とも異なる“第二世代MS”に分類される機体群のひとつであると言うことができる。

リック・ディアスは、エゥーゴとAEが共同で開発したMSである。この機体には、クワトロことシャアがアクシズよりもたらしたガンダリウムγなどの技術が盛り込まれているため、旧世代の機体に比べ、圧倒的な軽量化が達成されている。その効果が最も顕著なのが脚部の重量出力比である。また、リック・ディアスの開発には、公国系の技術者が多く携わっていたこともあって、ドムやゲルググに近いシルエットを持つMSとして完成したが、その基礎構造にはすでに連邦系の技術も融合されており、プロペラントの積載量や各部のスラスターバーニアの燃焼ユニットなど、連邦系（というよりもAE系）のノウハウや規格品が多数採用されている。そのため、例えば、ユニット単位のチューンナップなども比較的容易なように配慮されている。このことは、例えば一年戦争時に、MS-06Fの総推力をわずか3割程度向上させた06Sを製造するために必要であった人的、資源的コストを考えれば雲泥の差であると言える。実際、シャアことクワトロが当初使用していた“赤い”機体は、同時期にアーガマに配備されていた他の2機とは異なるバーニアユニットが採用されていたらしく、例えば複数のバーニアユニットがそれぞれジンバルを持ち、より厳密なベクター制御が可能であったと言われている。ただし、その機能をアクティブにした場合、却ってピーキーで“乗り難い”機体となるため、よほど技能に自信がなければ乗りこなすことはできなかったようだ。



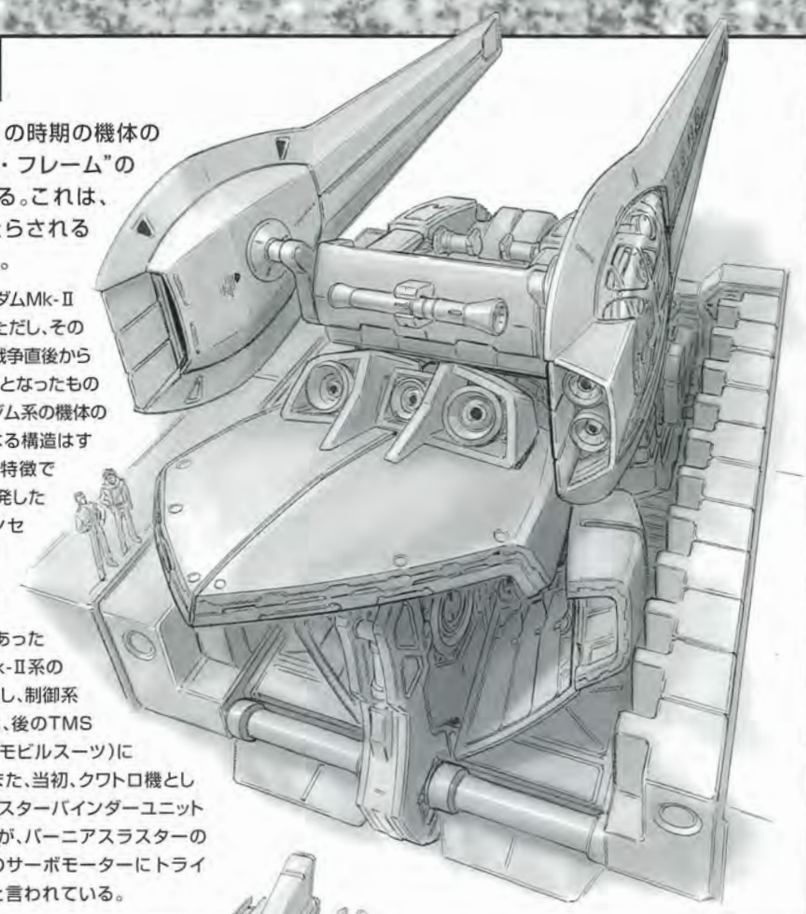
Mechanism illustration : BEE-CRAFT



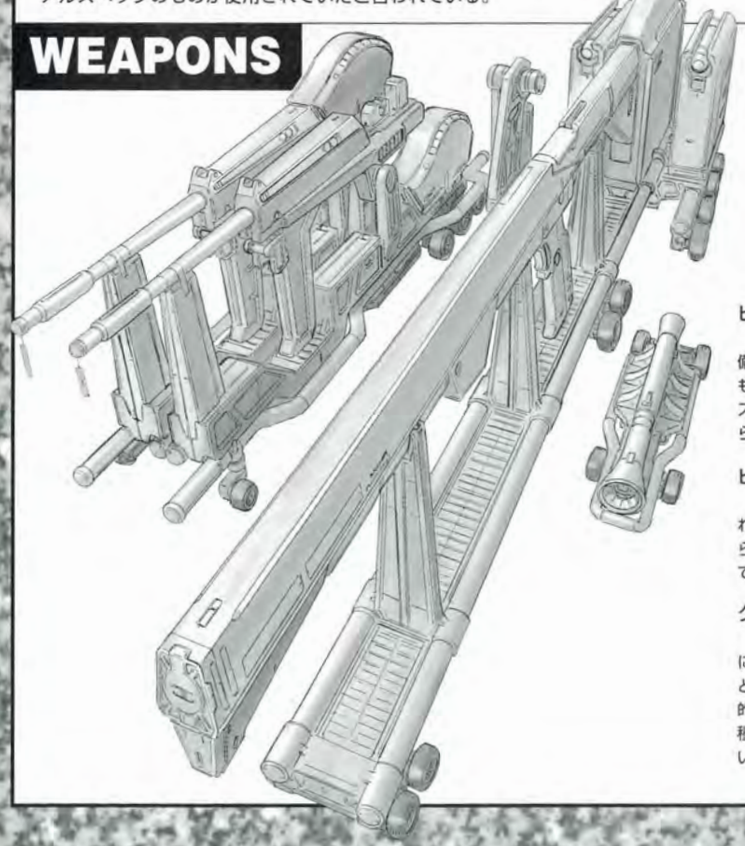
BODY UNIT

リック・ディアスには、後にこの時期の機体のスタンダードとなる“ムーバブル・フレーム”の極最初期のものが採用されている。これは、エゥーゴにガンダムMk-Ⅱがもたらされることにより、更なる進化を遂げる。

“ムーバブル・フレーム”は、基本的にガンダムMk-Ⅱの登場によって完成したと言われている。ただし、その技術は唐突に登場したわけではなく、一年戦争直後から連綿と続く技術の蓄積があって初めて可能となったものである。実際、U.C.0083年に製造されたジム系の機体の一部にはムーバブル・フレームの基礎となる構造はすでに採用されていたし、モノコック構造が特徴であった公国系の技術者が中心となって開発したこの機体にしても、同様のフレームのコンセプトに基づく機構が採用されているのである。ただし、リック・ディアスに採用されているフレームは、頭部に制御系を、腹部に動力系の中枢を分散配置する規格であったため、後の機体には、より柔軟性の高いMk-Ⅱ系のフレームが多く採用されるのである。ただし、制御系と動力系の中枢を分散するコンセプトは、後のTMS(Transformable Mobile Suit=可変モビルスーツ)に必要不可欠なノウハウとなるのである。また、当初、クワトロ機として使用された赤い機体に据えられたブースターバインダーユニットは、機能としては他の機体と同じものだが、バーニアスラスターのユニットと支持架であるクランク部分のサーボモーターにトライアルスペックのものが使用されていたと言われている。



WEAPONS



リック・ディアスは、エゥーゴの戦略の根幹をなす“調達容易な高性能MS”という要求に対し、十二分に応えるものであった。それは例えば、使用可能な武装が多岐にわたることからも十分に知ることができる。ちなみに機体開発時のコードはMSA-099であった。

ビーム・ピストル

リック・ディアスの専用武器で、背部のラックに2丁装備されている。装備したままの状態でも使用可能で、射角もある程度制御可能。ビーム・ピストルは、ビームをパルス状に射出できるため、エネルギーロスが少なく、射線から自機の位置を検出されにくいという特徴も持っている。

ビーム・サーベル

この機体のために開発された新開発のデバイスが採用されたものだが、性能そのものは既存のものとほとんど変わらない。ただし、ビーム発振ユニットの歩留まりが安定していたため、後に百式などにも同等品が採用されている。

クレイ・バズーカ

本来クレイ・バズーカとは、敵機の撃破よりも内部破壊による稼働不良、すなわち“足手まとい”とする粘着榴弾などを射出する武装である。エゥーゴの初期の戦術では、積極的に敵機を鹵獲する方針が採られていたためもあり、その種の弾頭が多用されていたため、この武装もそう呼ばれているが、実際には他の弾頭も運用可能である。

DEPARTURE

サイド7の1バンチコロニーは、戦後"グリーン・ノア1"の名で再建された。それに隣接して、ジオンから接収した密閉型コロニーを繋ぎ合わせた軍事工廠基地として"グリプス"ことノア2が建造されティターンズの拠点となった。ティターンズは、本来なら一般市民の居住コロニーであるグリーン・ノア1でガンダムMk-Ⅱのトライアルを行っていた。そんな憤りに駆られたのだろうか、カミーユ・ビダンは自分をエゥーゴの味方であると宣言し、Mk-Ⅱの略奪に荷担してしまった。「流れ弾に当たるな」「うぅ!!」追撃の火線が機体をかすめる。本物の戦闘に怯える間もなく、コクピットのどこかから空気の漏れる音が聞こえる。「3号機、ついて来れるのか!!」「あ、ええ、大丈夫です」不安を悟られまいと到着までの時間を訊ねる。「どうしたのだ?」「宇宙は慣れないものですから」カミーユは曖昧に強がりながら、自分を落ち着かせようと宇宙を見据える。「……とても懐かしい感じがする」フゥッと楽になった気がして、カミーユはそのまま目を閉じる。

CONTACT COMMUNICATION OF THE SKIN

エゥーゴが極秘裡に建造した機動巡洋艦アーガマは、ほんの数日前にスウィート・ウォーターを出航し、今はティターンズが拠点とする"グリプス"が浮かぶグリーン・オアシス(サイド7)宙域にあった。U.C.0087年3月2日。エゥーゴが独自に開発したリック・ディアスが3機、コロニーに向かっていた。そのうち、1機だけ赤く塗られた機体が僚機の手に触れて話しかける。MSに限らず"お肌の触れ合い通信"は、ミノフスキー粒子が散布されている場合か、あるいは傍受を防ぐために使われる。「アポリー中尉、調子はどうか?」「コクピットが違っても、3日もあれば自分の手足にすることができます」「自分たちはマニュアル通りの訓練などはやっておりません。それで一年戦争も潜り抜けてきたのですから」追いついた機体が赤い機体の足に触れて会話に加わる。「ロベルト中尉、その過信は自分の足をすくうぞ」「はっ、クワトロ大尉」機体同様赤いノーマルスーツを着たクワトロと呼ばれた男は、眼前に迫るコロニーを見据えた。

WARSHIP ROBBER PLAN

U.C.0087年4月21日。地球降下作戦に備え、エゥーゴはグラナダに停泊しているティターンズの艦艇を強奪する計画を実行に移す。新しく配備された百式のチェックを終えたクワトロは、共に出撃するふたりに指示を出す。「百式のテストとグラナダの支援だ。目立つ色になったから気を付けろ」アポリーとロベルトのリック・ディアスもまた赤く塗られていた。「味方に撃たれないためには仕方ないですよ」「大尉の色は、人気がありますからね」さらにアポリーはクワトロに訊ねる。「ウォンをなんで怒らせたんです?」「カミーユがのそのそしているからさ」その頃、作戦に先立つミーティングに遅れたためエゥーゴの出資者ウォンに"修正"されたカミーユは、その作戦への参加を拒否していた。しかし、エマ・シーンに諭され、あるいは反発もあって思い直す。先行する3機に追いつくべく緊急発進で出撃したカミーユは、3機の後を追いながら、ふと物思いにふける。「クワトロ大尉って、こうなるってわかってたのかな?」間もなく合流した4機は、一路グラナダを目指す。「嫌いだな、ずっと試されてるみたいだ……」「グラナダだ、出迎えと合流する!!」その想いを遮るようにクワトロが作戦開始を告げる!!

FORM SELECTION

ヘッドカバー等、機体の一部は選択式。クワトロ機および一般機、いずれかの仕様にすることが可能。

WEAPONS

PAINTING

※よりリアルに仕上げたいかたは、下の基本色をご覧ください。
※塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
●このキットをよりリアルに塗装したい方は、(株)GSIクレオスより発売のガンダムカラーをお使いください。

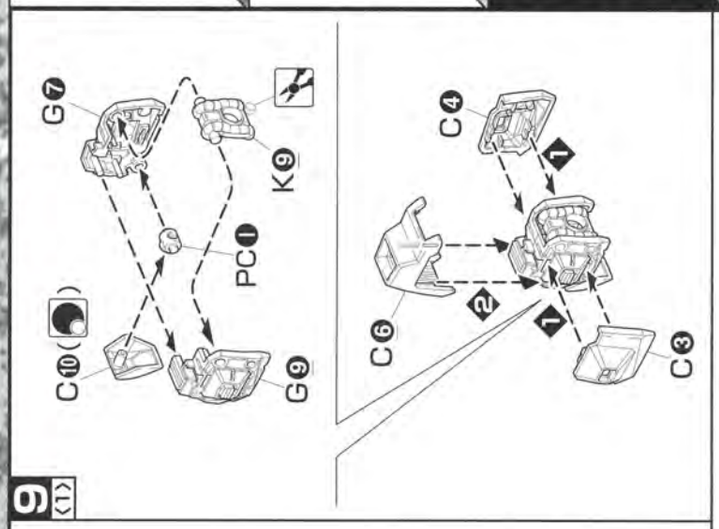
- 本体等レッド部の塗装色。モンザレッド(100%)+ブラック少量 ※またはガンダムカラーレッド1
- 胸等ブラウン部の塗装色。レッドブラウン(50%)+ブラック(50%) ※またはガンダムカラーブラウン2
- 関節等ライトグレー部の塗装色。ミディアムブルー(60%)+ホワイト(40%)+レッド少量
- 内部メカ等ダークグレー部の塗装色。ミッドナイトブルー(100%)
- クレイ・バズーカ ダークグレー部の塗装色。ブラック(50%)+ダークグレー(40%)+レッド(10%)

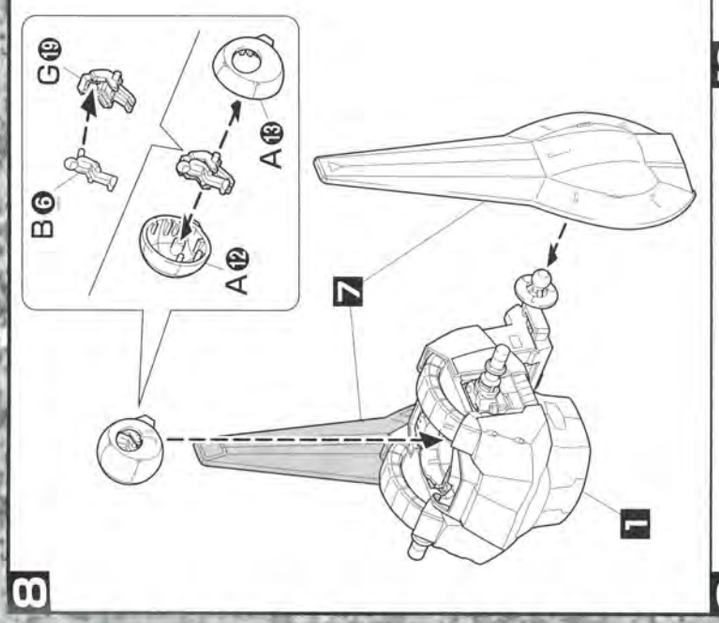
FRONT VIEW

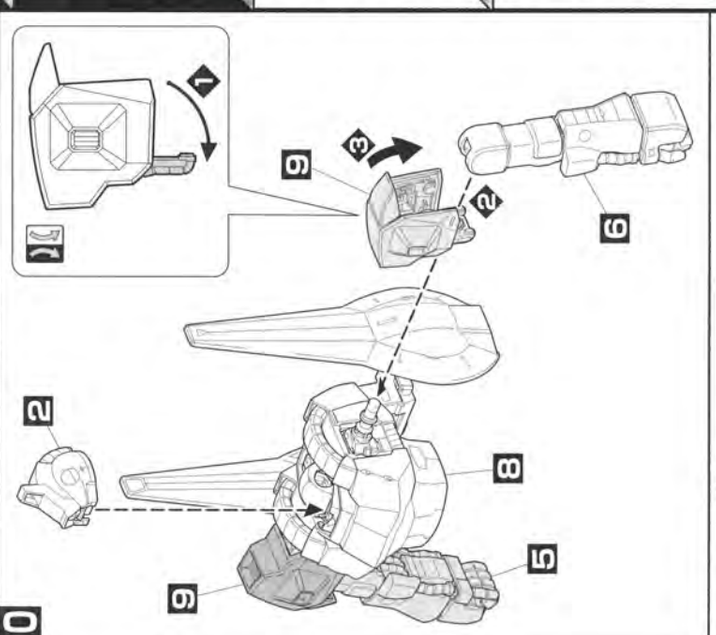
REAR VIEW

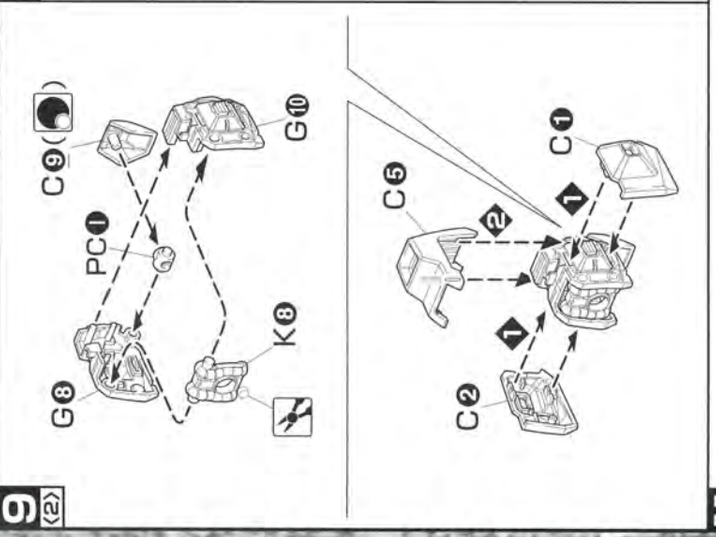
▲ 頭部バルカンファランクスは、開閉可動式。内部には、コクピット、フィギュアも再現。

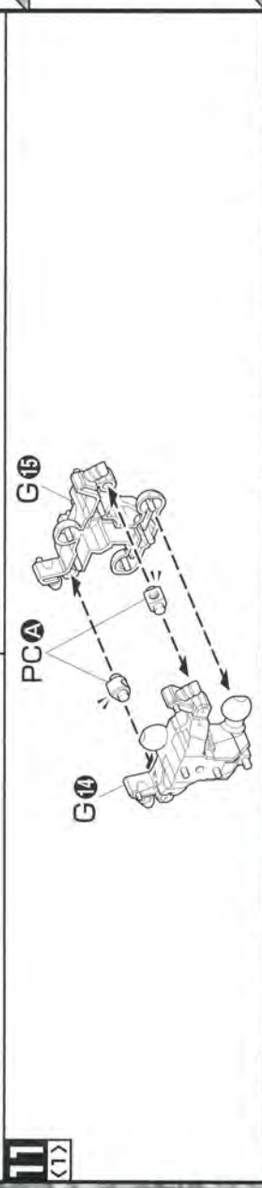
▲ 胴体内部や脚内部には、スラスター等の内部メカディテールを再現。


9 <1>
G7
K9
PC1
C10( )
G9
C4
C6
C3

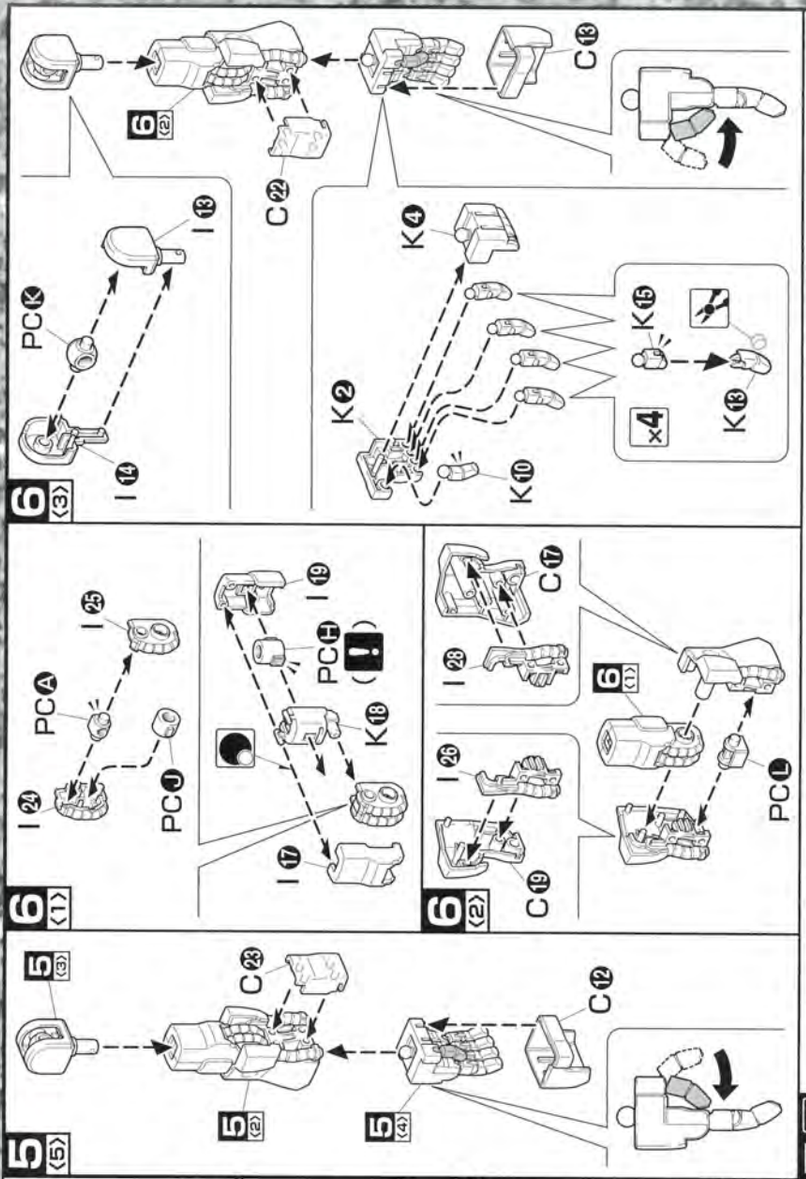

8
G18
A13
B6
A12
7
1

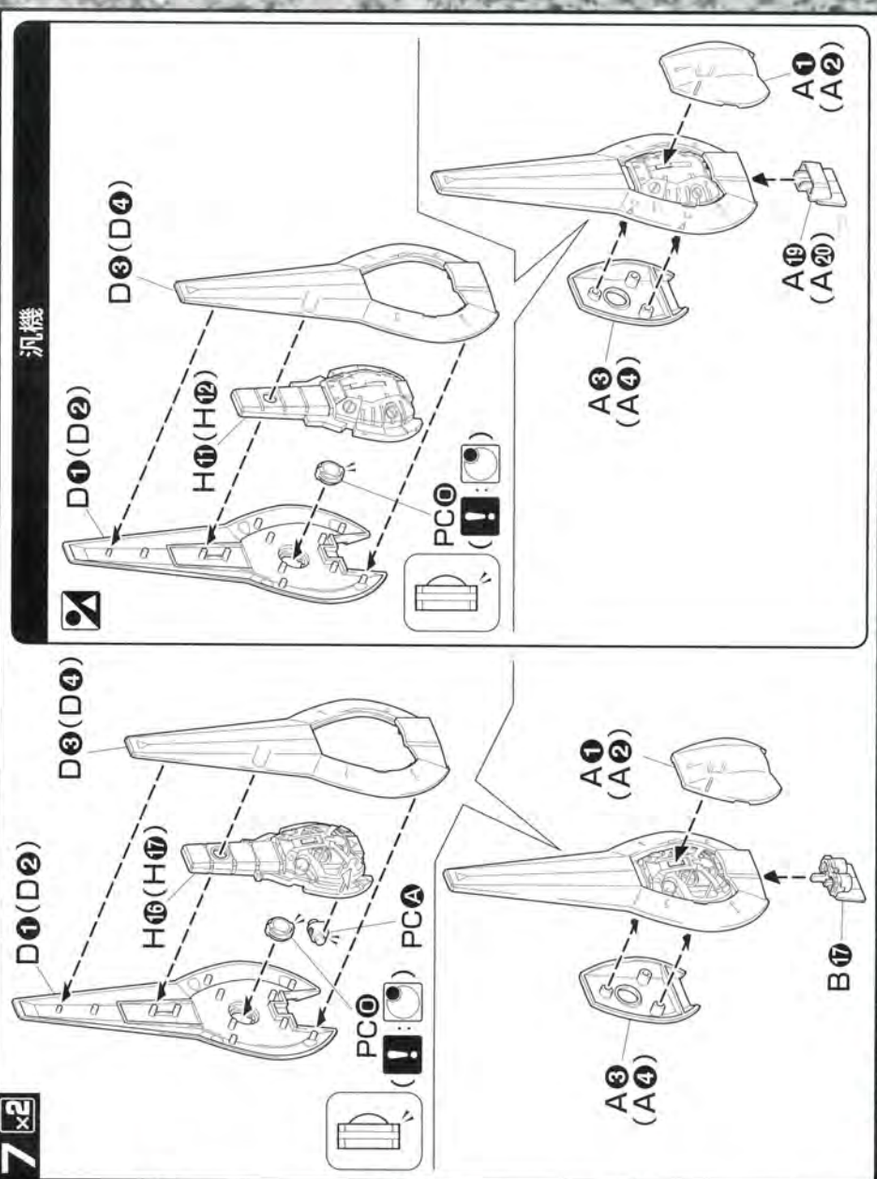

1
9
3
2
6
2
8
9
5
10


9 <2>
C9( )
G10
PC1
G8
K8
C5
C1
2
1
1
C2

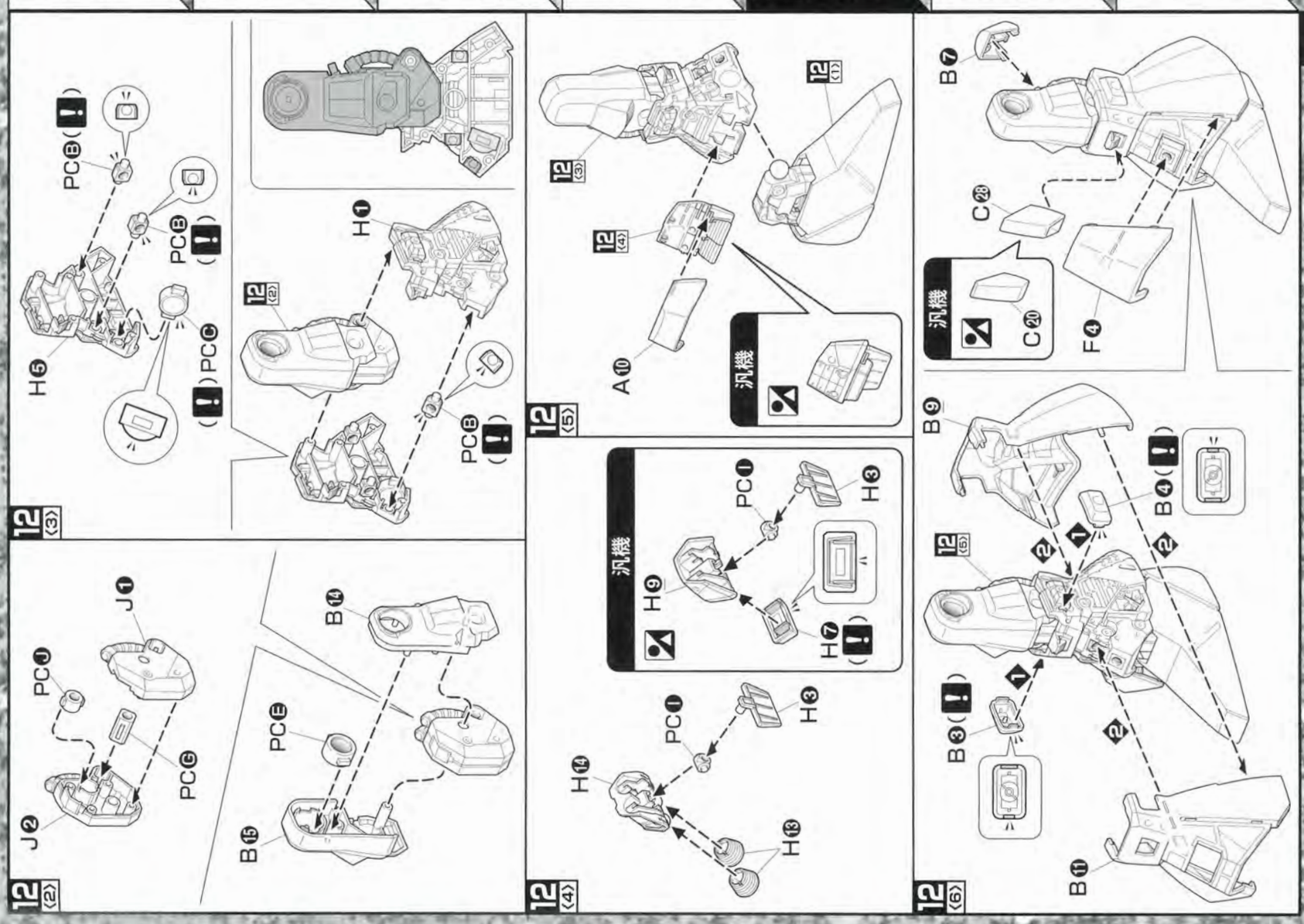

G15
PC4
G14
11 <1>

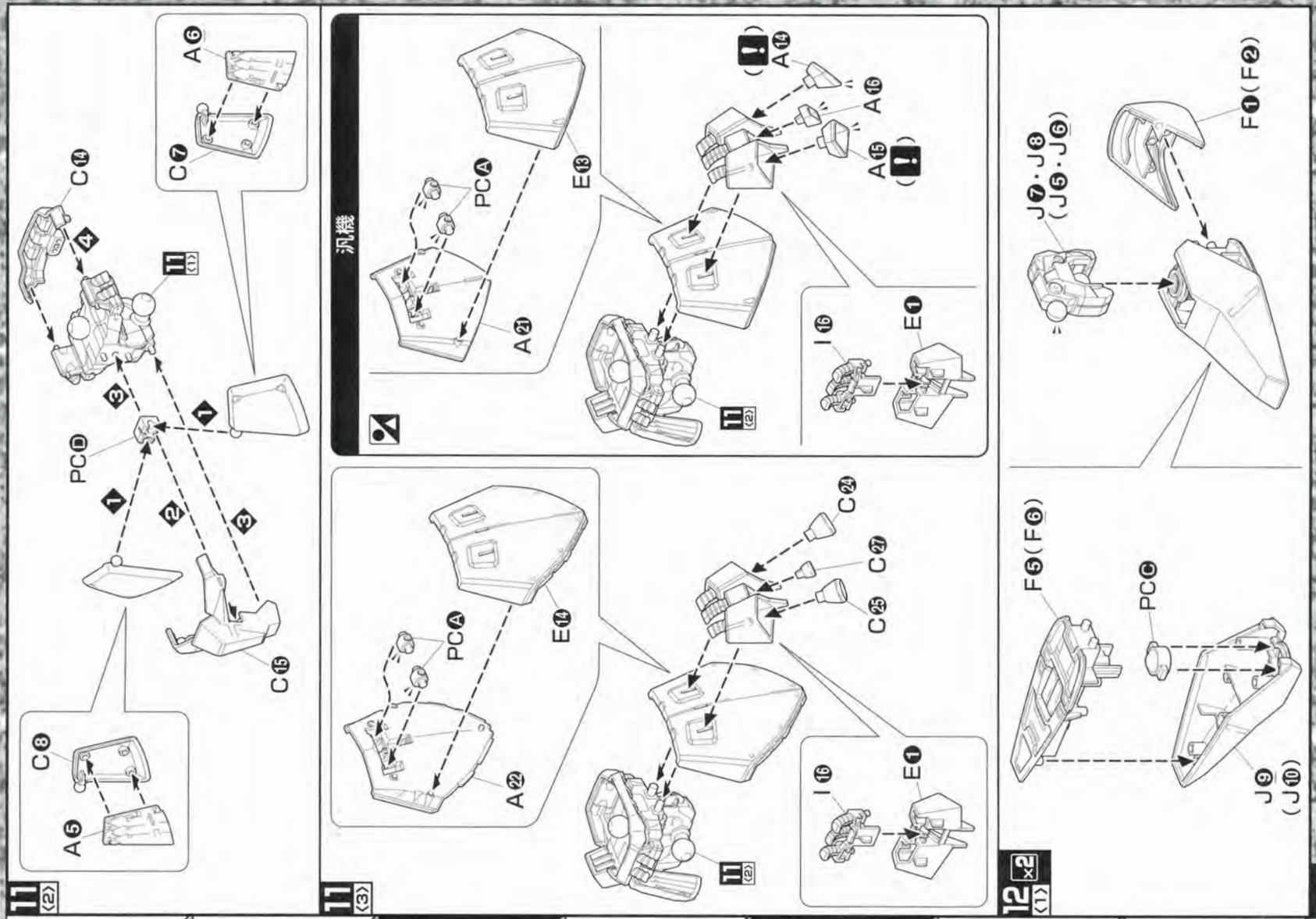
13


5 <5>
5 <3>
C23
5 <2>
5 <4>
C12
6 <1>
I24
PCA
I25
PCJ
I19
PCH
( )
K16
I17
6 <2>
C17
I26
I26
C19
6 <1>
PCL
6 <3>
PCK
I14
I13
6 <2>
C22
C13
K4
K2
K15
×4
K13
K10

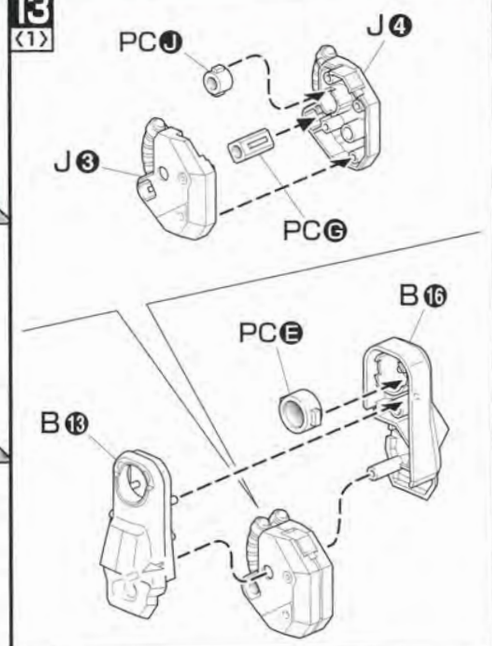

汎機
D1(D2)
D3(D4)
H11(H12)
PC0
(:)
A3
(A4)
A1
(A2)
A19
(A20)
D1(D2)
D3(D4)
H16(H17)
PC0
(:)
PCA
A3
(A4)
A1
(A2)
B17
7 ×2

12

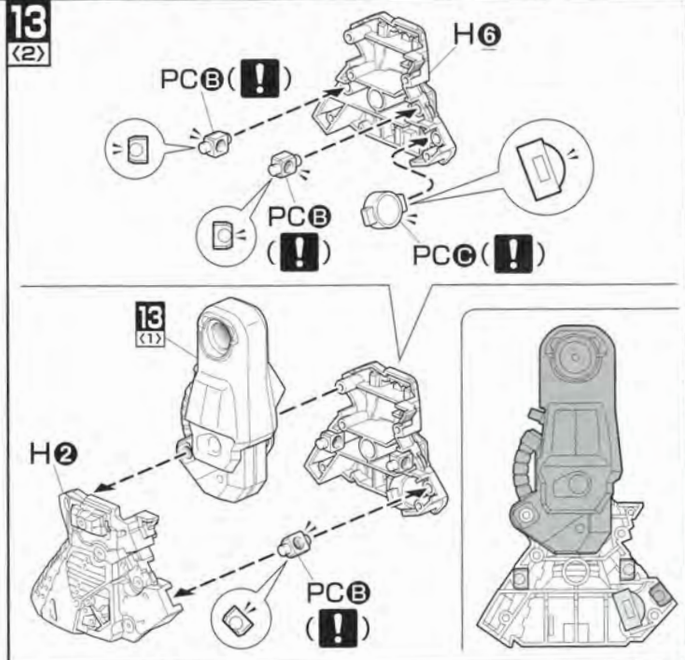

12 〈3〉
PCB
H5
PCC
H1
12 〈2〉
PCB
12 〈2〉
J1
PCD
J2
PC6
B14
PCE
B15
12 〈4〉
汎機
H9
PC1
H3
H7
H14
PC1
H3
H13
12 〈5〉
12 〈1〉
12 〈3〉
A10
汎機
12 〈6〉
B7
C26
C20
汎機
F4
B9
B4
12 〈5〉
B3
B11


11 〈2〉
A6
C7
C14
11 〈1〉
PCD
C15
C8
A5
11 〈3〉
汎機
PCA
E13
A14
A16
A15
A21
11 〈2〉
I16
E1
12 〈2〉
J7・J8
(J5・J6)
F1(F2)
F5(F6)
PCC
J9
(J10)
12 〈1〉
C24
C27
C25
PCA
E14
A22
11 〈2〉
I16
E1

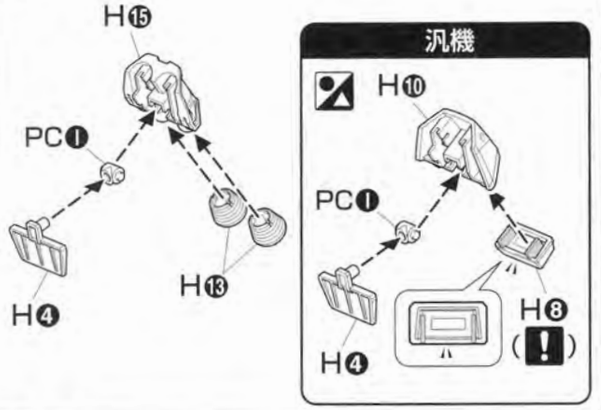
13 〈1〉



13 〈2〉

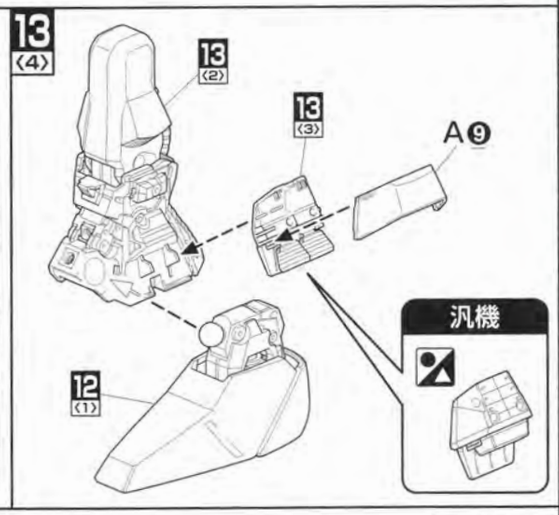


13 〈3〉



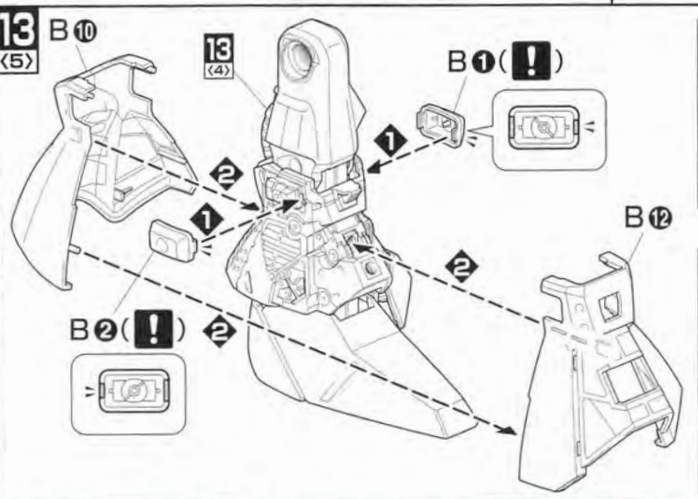
汎機

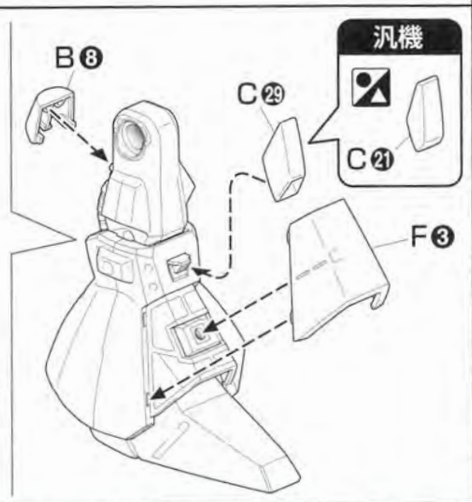
13 〈4〉



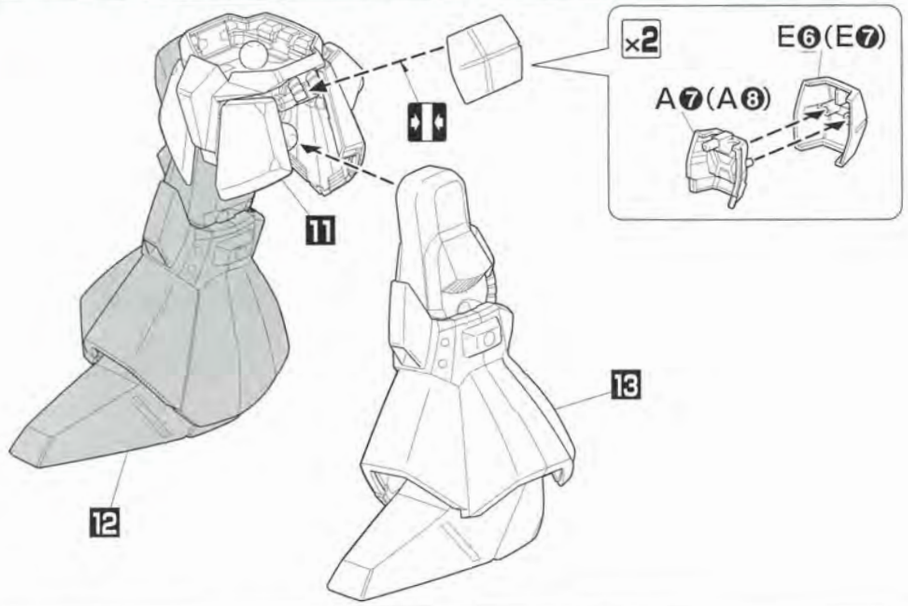
汎機

13 〈5〉

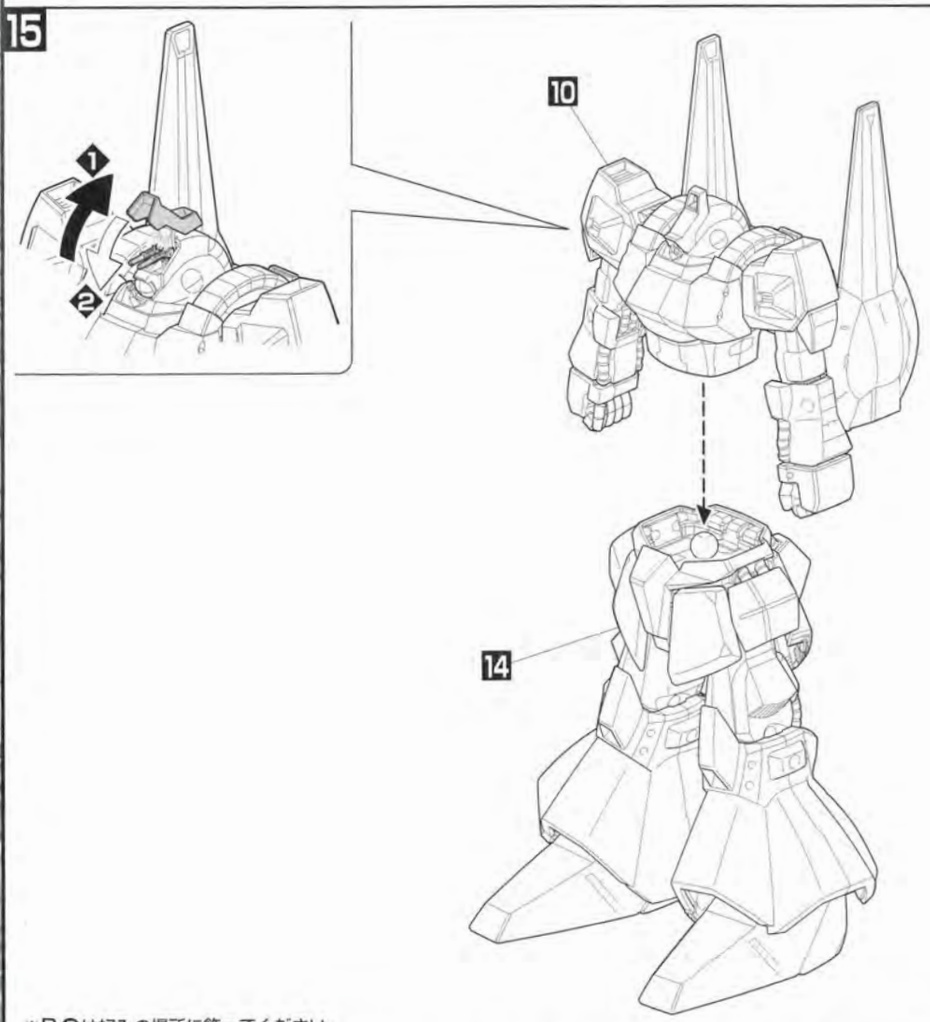




14

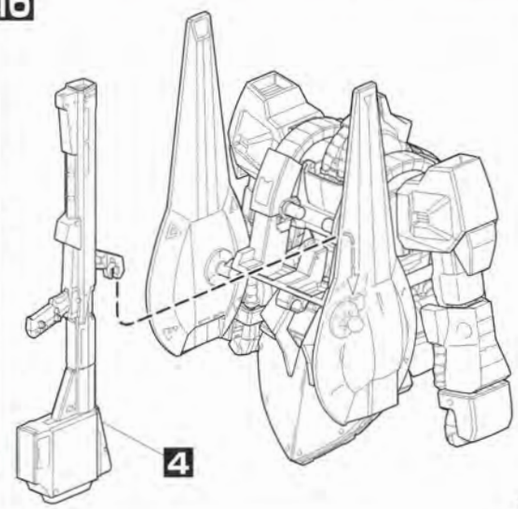


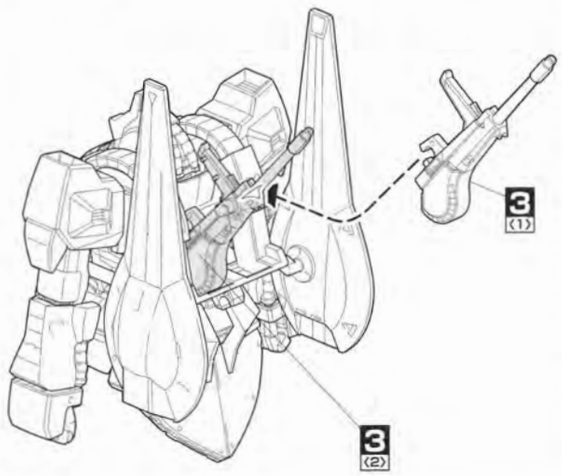
15

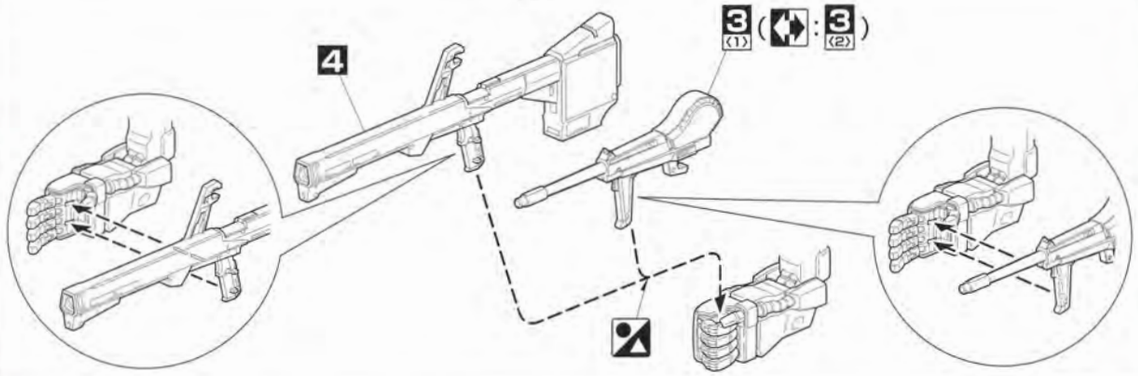


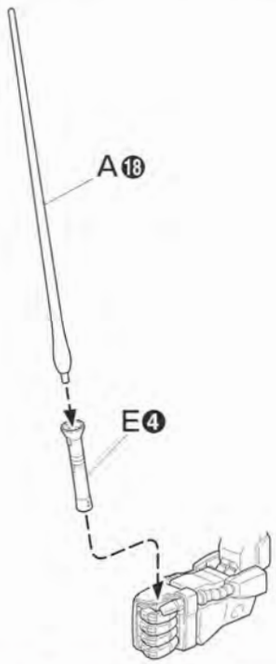
※B ❺は好みの場所に飾ってください。

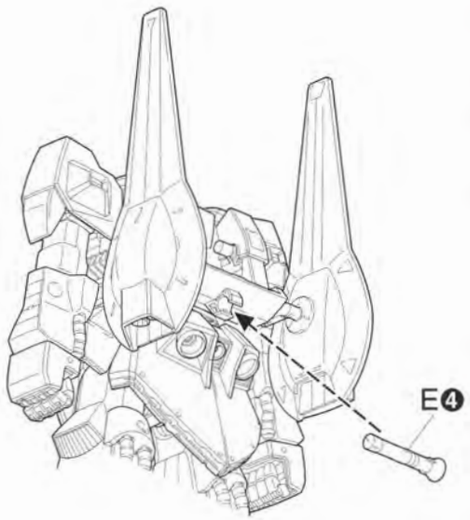
16











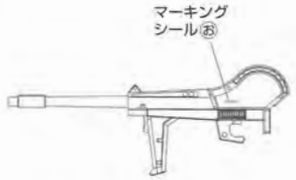
Seal
〈シール〉

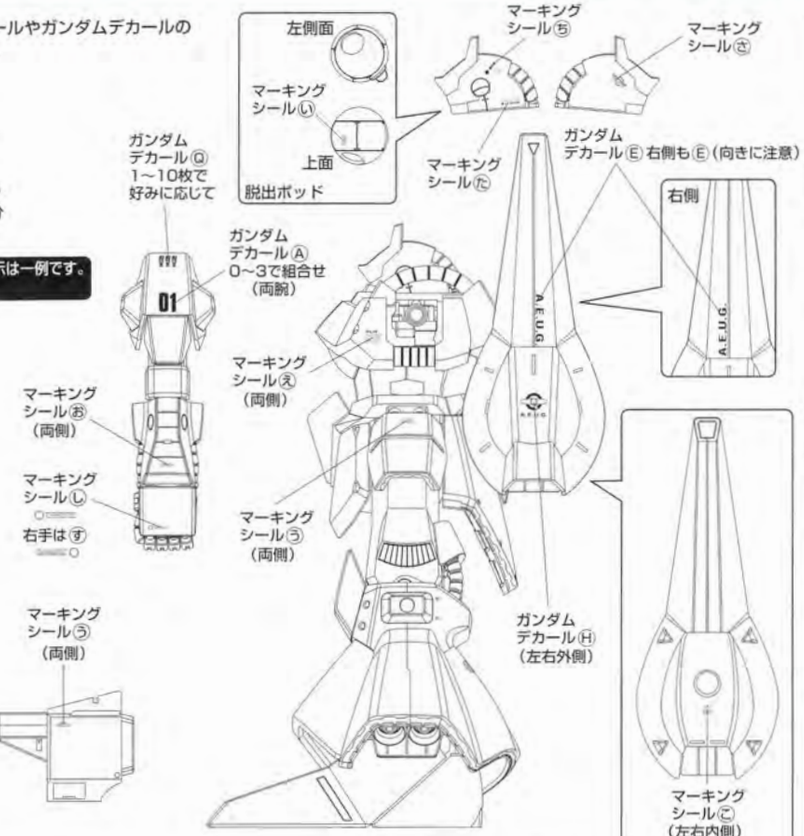
下の図を見て、マーキングシールやガンダムデカールの貼る位置を確認してください。

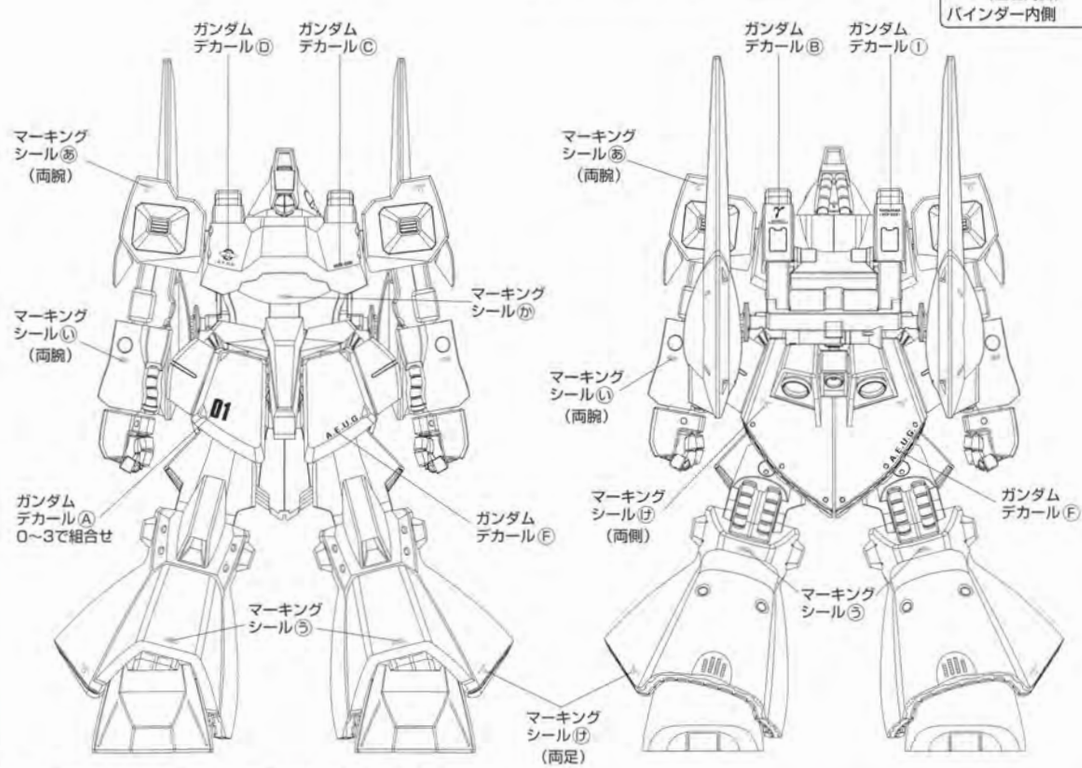
ガンダムデカールの貼りかた。

1.転写するマークを大まかに切ります。
2.転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
3.シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすります。

このマーキングシール及びガンダムデカール指示は一例です。イメージに合わせてお貼りください。







※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。